



教育推進室だより

第5号

平成28年3月1日
武蔵野市教育委員会
指導課教育推進室
電話60-1241

教育センター実現に向けた課題「適時適切」

教育部長 竹内 道則

昨年4月に市役所5階に「教育推進室」が設置されて、武蔵野市の目指す「教育センター」構想実現に向けた準備が一段進みました。

教育センターの目指す5つの機能、「相談・支援」、「研修」、「教育情報収集・発信」、「調査・研究」、「ネットワーク構築・コーディネート」の機能のうち、調査・研究の機能を担うスタッフが今春から加わる見込みとなり、教育センターの完成には、設置場所と大野田小学校の地下にある「教育支援センター」との機能統合が残されるだけとなります。設置場所については、昨年5月に決定した「学校施設整備基本方針」では、「人が集まりやすい地域で、早期に改築する学校施設内に設置していきます」としていますが、まだ、どこの学校に付設するのか特定されていません。教育支援センターとの機能統合（連携）についても、特別支援教育に関することとの関係や教育委員会の組織としてどう位置づけるかなど検討すべき事柄が多く、「平成〇年に完成します」と宣言できる状況ではありません。

全国的にみると、いわゆる教育センターは、皆さまご案内の通り、県レベルからさらに設置が広まり、市のレベルでもたくさんの自治体で設置されています。

平成25年3月の武蔵野市教育センター（仮称）検討委員会報告書でも触れられていますが、教育センター設置の背景には、学校の教育力を高める必要性とともに、経験の浅い教員への相談・支援や、教員の多忙化、新たな教育課題への対応などがあげられています。これらは、武蔵野市に限らず、どこの地域でも学校を巡る課題として必ずあげられるものです。

実は、武蔵野市役所でも、学校より数年早く団塊世代職員の大量退職期を迎えて、5年程の間に職員の3分の1が入れ替わりました。市では、職員構成がガラリと変わる、その時期に合わせて、職員間で共有すべき武蔵野市職員の職務行動上の価値観として「職員行動指針」を定めました。学校と同様に市役所の仕事のやり方も昔と変わり、団塊職員の退職で経験年数の浅い職員の比率が高まり、非常勤の職員が5割を超える職場もあり、一人で担当する仕事が増えて同僚からアドバイスを得ることも難しい、先輩からじっくり丁寧に仕事のやり方を伝えられる余裕も持てないなど様々に環境が変わりました。この職員行動指針は、技能をどう継承していくか、組織の良い風土や、価値観など暗黙知と言われるものを組織的に、継続的に伝えていくための一つの方策として、武蔵野市が取り組んだものですが、教育センターにも、学校を巡る課題とその求められる役割には、似たところがあると思っています。

教育センターの実現は、そのような状況の中で、まさに今求められていることだと思います。必要とされる時期を逃さずに、教育推進室としても今ある機能の内実を適切に高めることと同時に、一日でも早い教育センターの始動にむけた努力を続けようと思いを新たにしたいところです。



オリンピック・パラリンピック等、国際大会に向けて

平成 27 年度第 2 回開かれた学校づくり協議会代表者会 平成 28 年 1 月 22 日(金)

開かれた学校づくり協議会代表者会は、年 2 回、各校代表者が一堂に会して協議や意見交換を行うことを通して、教育委員会の諸事業についての共通理解を図るとともに、学校と地域が連携して教育を推進することを目的として、平成 21 年度から開催しています。

今年度、第 2 回目の会議では、宮崎活志教育長のあいさつ、4 名の教育委員、事務局、各校代表者の方の自己紹介の後、竹内教育部長より「武蔵野市教育、文化等の総合的施策の大綱について」、指田指導課長より「地域コーディネーター」について報告しました。

協議では、「オリンピック・パラリンピック教育等の推進」をテーマに取り上げ、まず、齋藤生涯学習スポーツ課長より、2020 年東京オリンピック・パラリンピック及びラグビーワールドカップ 2019 年日本大会に向けての武蔵野市の取組について説明を行いました。

その後の意見交換では、代表者の方々からご自身が体験された 1964 年東京オリンピックの思い出も語られながら、以下のご意見をいただきました。



教育委員のあいさつ



協議の様子

【オリンピック・パラリンピック教育等の推進について、代表者の皆様からの主な意見】

- ・小学校のクラブ活動で、担当の教員がオリンピック・パラリンピックに関するリーフレットを作成して、指導に活用している。このような取組がオリンピック・パラリンピック教育につながっていく。とてもありがたい。
- ・オリンピック・パラリンピック教育とリンクした学習を学校で工夫して行ってほしい。
- ・運動を楽しむ意欲を高める指導や、フェアプレーの精神をいじめ問題の解消につなげてほしい。
- ・日本の文化を発展させる機会として生かしてほしい。
- ・オリンピック・パラリンピック教育を通して「何を学ぶのか」、レガシーとして「何を残していくのか」を考えて指導していくことが大切である。
- ・教員に負担をかけないよう地域コーディネーターを機能させ、地域の人材を活用してほしい。地域としてぜひ協力していきたい。
- ・武蔵野市らしい「おもてなし」を体験をさせる機会としたい。
- ・英語をネイティブの方に試みる機会として英語を積極的に使ってほしい。

代表者の皆様からいただいたご意見を踏まえながら、今後、オリンピック・パラリンピック等、国際大会に向けての教育施策の進め方について、改めて検討してまいりますので、よろしく願いいたします。

小・中合同セカンドスクール報告会

セカンドスクール全校実施20年目の今年、近隣の小・中学校ごとに小・中合同の児童・生徒による報告会が実施されました。

11月30日(月)に第四中を会場に大野田小・千川小の3校で、12月3日(木)に第三中を会場に第三小・第四小・本宿小の4校で、1月22日(金)に第五中を会場に第五小・関前南小の3校で、1月26日(火)に第二中を会場に桜野小の2校で、同日に第六中を会場に第二小・境南小の3校で、1月29日(金)に第一小を会場に井之頭小・第一中の3校で行われました。1月29日は「第10回むさしの教育フォーラム」として実施されました。

6つの会場で児童・生徒1,474名、保護者・地域の方・来賓532名の方にお集まりいただきました。どの学校も、体験学習の内容やセカンドスクールの歴史をはじめ、お世話になった方へ感謝する心、協力して生活することの大切さなど、セカンドスクールの学習を通して学んだことを児童・生徒が立派に発表していました。

また、児童・生徒と実施地の方々によるパネルディスカッションを行った報告会もありました。それぞれの立場でセカンドスクールの効果や意義について改めて考えることができました。

これまでセカンドスクールの実施にあたり御協力いただいた実施地の方々をはじめとする関係者の皆様、保護者・地域の皆様に改めて感謝申し上げます。

今後もセカンドスクールを「豊かな心や感性を育む教育」の実践的な取組の一つとして、一層の充実を図っていきたいと思います。



GOOD DESIGN AWARD
2015年度受賞

グッドデザイン賞を
受賞しました

書き初め展

美術展

東京駅伝

感動をありがとう

武蔵野市民文化会館の1階展示室で、1月23日(土)～25日(月)の間、「武蔵野市立小・中学校書き初め展」が開催され市立小学校1・2年生の児童硬筆作品約250点と、市立小学校3～6年生の児童と中学校全学年の生徒の約750点にも及ぶ毛筆作品が展示されました。

また、2月5日(金)～7日(日)の間、「武蔵野市立小・中学校美術展」が開催され、市立小・中学校18校からの約1,300点の作品とともに友好都市富山県南砺市利賀村と長野県安曇野市豊科の児童・生徒作品34点が展示されました。また、市役所1階のフロアでは2月1日(月)～12日(金)の間、市立小学校「特別支援学級紹介・作品展」が開催されました。どの会場からも作品を鑑賞する来場者から感動の声が上がっていました。

一方2月7日(日)には味の素スタジアムを会場に第7回中学生「東京駅伝」大会が開催されました。この大会は東京都内の中学校に在籍する2年生が各区市町から男女21名ずつ選抜され、女子は30kmを16名で、男子は42.195kmを17名の選手がたすきリレーするもので、前回と同じ男女各50チームが参加しました。武蔵野市内の都立・私立・市立の各中学校から選ばれた42名の生徒で代表チームを結成しました。結果は女子35位、男子37位で、寒空の下、出場選手全員が最後まで頑張り、立派に完走することができました。



特別支援学級紹介・作品展



快走する武蔵野女子チーム

先輩の授業に学ぶパート2 ～ICT機器の活用～

2月の初任者研修ではICT機器の活用について先輩の授業を参観し、教育アドバイザーから様々な活用事例と使用する際の留意点などについて講義を受けました。

「ICT機器の活用によって、授業内容をより充実させることができると感じました。」「子どもが主体的に学習するための手立ての一つとして、今後活用していきたいと思います。」など、今後の授業改善について考えを深めました。

教育アドバイザーによる授業研修訪問

初任者研修では、これまで教育推進室だよりで紹介した研修以外に、教育アドバイザーが授業を参観し、指導・講評を行う授業研修訪問を年間5回行っています。初任の先生方からは「授業の構成の仕方や発問の重要性が分かりました。」「これから教科指導の専門的な力量をさらに高めていきたい。」などの声が寄せられています。この1年、日々の授業や様々な研修を通して初任の先生方も大きく成長してきました。今後の活躍をさらに期待したいと思います。



研修では、普段自分たちがどのような場面でICT機器を活用しているかの情報交換も行いました。

通信の歴史と技術の授業をいたします

～地域で活躍している団体紹介～ <その4>



NTT技術史料館

NTT技術史料館
NTT情報ネットワーク総合研究所
(工学博士 山田崇史)

「NTT技術史料館」は、21世紀に伝えたいNTTグループの膨大な技術史料をもとにした歴史的資産の集大成です。館内の展示は2部構成になっており、歴史の流れを追って技術と社会の関わりを大きくとらえる「歴史をたどる」、技術分野ごとに技術発展の系譜を詳しく展開する「技術をさぐる」です。例年、夏休みや冬休みに子ども向けのイベントを開催するとともに、大人も楽しめるクリスマスイベントや、OB技術者による技術の伝承「語り部の会」など新しい催しも企画され、親子ともに楽しく学べる施設となっています。

来館記念のプレゼントとなっているペーパークラフトで作る「緑の公衆電話機」「丹頂形の公衆電話ボックス」をプロデュースした山田崇史博士は、研究者として大活躍していますが、子どもたちに向けてのイベントを考えることも「楽しい」とおっしゃっていました。

電気を通す銀の粒子を使った特殊なインクのマーカーペンで描く電子回路でLED照明と電池を結び、明かりを点灯させるカードなど、最新の技術を取り入れた講座を「むさしのサイエンスフェスタ」でも開催されていました。これからも多様なワクワクするプログラムを子どもたちの授業に取り入れていただきたいものです。そして、多様なイベント開催も楽しみにしています。

お問い合わせは

教育推進室またはNTT情報ネットワーク総合研究所（NTT技術史料館）にお電話を

電話 0422-60-1241(教育推進室)

0422-59-3311(NTT情報ネットワーク総合研究所(NTT技術史料館))



山田 崇史博士

【お知らせ】

今回の教育推進室だよりでお気づきの点やご意見がありましたら、ぜひ教育推進室までお寄せください。次号は地域コーディネーターの役割、平成28年度の初任者研修スタートの様子等を掲載する予定です。